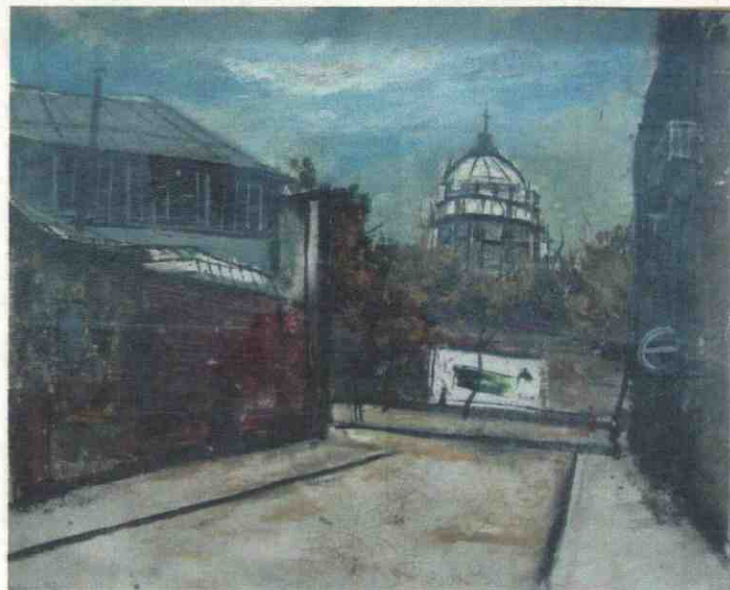


「並木二続夕坂」(個人蔵)



「少女半身像」(個人蔵)



「巴里市風景」(別府大学蔵)



「村役場前ノ家」(個人蔵)

郷土の天才画家

横手貞美展

佐伯祐三と描いたパリ

ごあいさつ

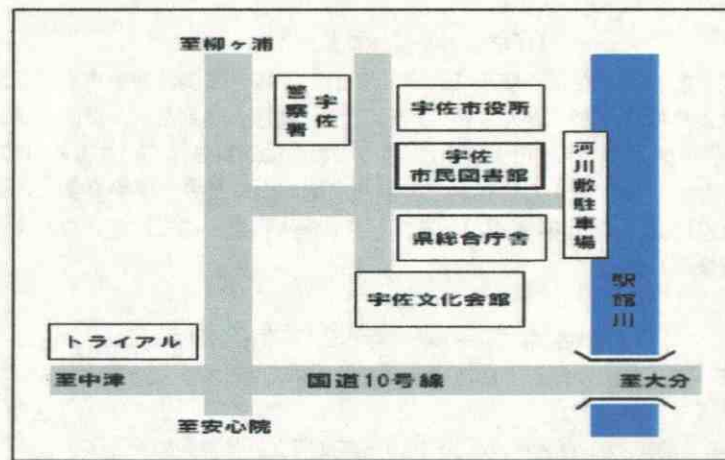
横手貞美(1899~1931)の本籍は宇佐市(宇佐郡横山村)ですが、司法官(判事)だった父の赴任先である宮崎市で生まれ、大分市で小学時代を過ごしました。14歳で父をなくしたあと、長崎市で病院を開業していた兄・貞護のもとで中学生活を送り、洋画と出会います。その後20歳で上京、28歳で渡仏しました。

佐伯祐三、荻須高德ら、のちに日本の近代絵画史に名を残すことになる先輩・友人らと切磋琢磨しながら旺盛な創作活動を展開し、サロン・ドートンヌに入選するなど、その才能を発揮しましたが、惜しくも31歳の若さで病気のために客死しました。現在、市内末にある横手家墓地に眠っています。

昨年、没後80年を迎えたことから、あらためてその業績を振り返るべく、ここふるさと宇佐で二回目となる横手貞美展「佐伯祐三と描いたパリ」を開催することになりました。2008年度に開催した生誕110年記念展示会に引き続き、尼子かずみ氏(『沈黙のしづく 画家・横手貞美の生涯』著者)、田口明美氏、末政紀氏、伊藤宏士氏、君野孝二氏、別府大学に資料の展示についてご協力を賜りました。感謝申し上げます。

平成24(2012)年1月14日

宇佐市民図書館
渡網記念ギャラリー

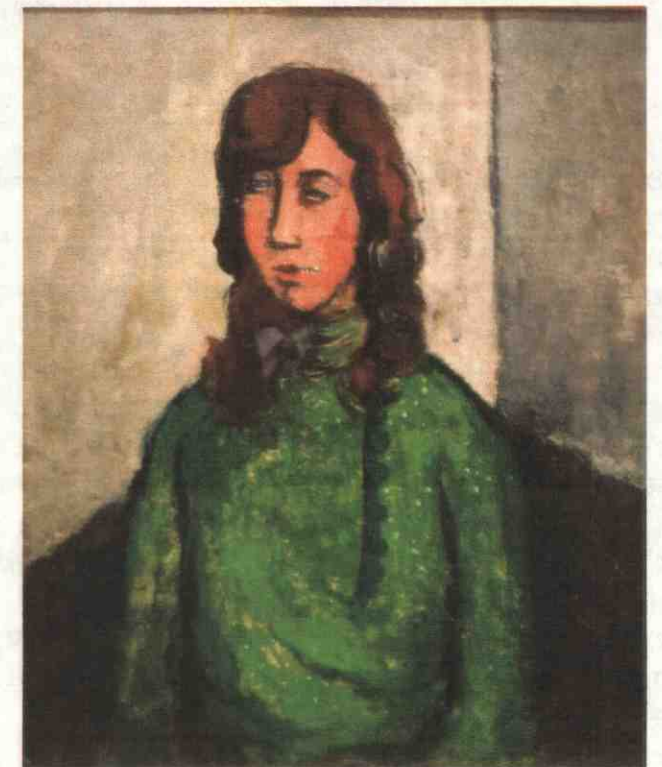


平成24(2012)年1月14日 / 発行・宇佐市民図書館
大分県宇佐市大字上田1017-1 TEL. 0978-33-4600

郷土の天才画家

横手貞美展

佐伯祐三と描いたパリ



「緑衣の女」(個人蔵)

2012.1.14~3.4

10:00~18:00(日曜のみ ~17:00)
休館日・・・毎週月曜日・月末木曜日

宇佐市民図書館
渡網記念ギャラリー



パリの横手貞美

〈横手貞美年譜〉

1899(明32) 0歳 10月2日、司法官(判事)である父・嘉一の赴任先である宮崎市で出生。本籍は、大分県宇佐郡横山村(現、宇佐市大字末)。

1906(明39) 7歳 父が大分裁判所赴任のため大分市に移り就学。

1913(大 2) 14歳 10月、父死去。11月、長崎市銀屋町で耳鼻咽喉科医院を開業していた兄・貞護のもとに移住。

1914(大 3) 15歳 私立海星中学(長崎)入学。フランス人図画教師・アルペールの指導を受ける。処女作「午後の光」を展覧会に出品(長崎図書館)。

1919(大 8) 20歳 海星中学卒業後上京。小林萬吾の「同舟舎」、岡田三郎助の「本郷絵画研究所」で学ぶ。東京美術学校を受験したが、胸部疾患の後遺症を理由に不合格。

1924(大13) 25歳 海老沢正治、甲斐宗平と「三人展」開催(長崎図書館)。三人とも大分県出身。

1927(昭 2) 28歳 9月、パリ留学のため、フランスMM社アトスII号で出発。荻須高德、山口長男、大橋了介同行。10月29日、リヨン駅到着。午後、佐伯祐三と初対面感激する。11月、高野三三男宅にて藤田嗣治夫妻に会い、荻須、山口も一緒に過ごす。12月、リュ・ダゲールのアトリエに引っ越す。向井潤吉と知り合う。

1928(昭 3) 29歳 2月下旬、佐伯一家(祐三、米子夫人、娘彌智子)と大橋、荻須、山口と7人でパリ郊外モランヘスケッチ旅行。1日に2、3点主義の制作活動。3月、佐伯祐三咯血、発病。5~6月、佐伯の看病に仲間と献身。8月、佐伯祐三死去。9月、佐伯と娘彌智子(8月30日死亡)2人の遺骨を抱いて帰国する米子夫人を荻須、山口、大橋とマルセイユに送る。10月、サロン・ドートンヌに「アトリエの中庭」(入選)、「広告のある裏通り」を出品。冬、寒波を避け、南仏カーニュへ転地。林重義、竹中郁と交流。

1929(昭 4) 30歳 サロン・ドートンヌに「新聞雑貨店」、「書籍雑貨店」出品。作品が評価され、新聞に評が出たり、作品購入についての問い合わせがある。

1930(昭 5) 31歳 9月末、結核のため病牀に臥す。10月、パリ市立ブルゼ病院に入院。12月、スイス国境に近いオートヴィル療養所へ転院。横隔膜神経切除、小康を得る。

1931(昭 6) 31歳 3月21日、胸部切開手術、22日午前2時死去(31歳)。椎名其二の手により、リヨンにて火葬。4月、パリで追悼会(パリ日本人倶楽部)。9月・10月、第18回二科展に8点特別展示(東京府美術館)。9月彼岸、中村恒夫により遺骨が神戸に帰着。郷里大分県宇佐市大字末の横手家墓地に埋葬される。法名「仏乘院釈貞美居士」。横手貞美滞欧遺作展(創画会主催、長崎公会堂)、『故横手貞美滞欧遺作集』(山口長男撰、横手貞護・横手貞致編)刊行。

郷土の天才画家 横手貞美展

~佐伯祐三と描いたパリ~

出品目録

【横手貞美・原画】 9点

- 横手貞美「自画像」(1925年 渡欧前作品 油彩・カンヴァス 72.5×60.0 個人蔵)
- 横手貞美「緑衣の女」(1930年頃 油彩・カンヴァス 73.0×60.0 個人蔵)
- 横手貞美「村役場前ノ家」(1928年 油彩・カンヴァス 60.0×72.5 個人蔵)
- 横手貞美「ヴェイトユ風景」(1929年 油彩・カンヴァス 72.5×60.0 個人蔵)
- 横手貞美「新聞雑貨店」(1929年 油彩・カンヴァス 60.5×73.0 個人蔵)
- ※サロン・ドートンヌ出品作品
- 横手貞美「煉瓦の二階家」(1930年 油彩・カンヴァス 60.0×73.0 個人蔵)
- 横手貞美「巴里市風景」(1930年頃 油彩・カンヴァス 67.0×79.0 別府大学蔵)
- 横手貞美「少女半身像」(1930年頃 油彩・カンヴァス 73.0×60.0 個人蔵)
- 横手貞美「並木二続ク坂」(1930年頃 油彩・カンヴァス 67.0×79.0 個人蔵)

【横手貞美・参考作品(写真)】 6点

- 横手貞美「モランの教会」(1928年 油彩・カンヴァス 60.0×73.0 親和銀行長崎支店蔵)
- 横手貞美「ガラージュ」(1928年 油彩・カンヴァス 60.0×73.5 長崎県美術館蔵)
- 横手貞美「アトリエの中庭」(1928年 油彩・カンヴァス 73.0×60.0 長崎県美術館蔵)
- ※サロン・ドートンヌ入選作品
- 横手貞美「モンデール寺院」(1930年 油彩・カンヴァス 92.4×73.7 長崎県美術館蔵)
- ※サロン・ドートンヌ出品作品
- 横手貞美「フランス革命記念祭の集い」(1930年 油彩・カンヴァス 80.0×120.0 長崎県美術館蔵)
- 横手貞美「ピロード服の女」(1928年 油彩・カンヴァス 88.5×64.0 長崎県美術館蔵)

【横手貞美関係の写真】 7点

横手貞美(2種) / 左より横手(湯地) 治(姪)、横手貞美、横手貞嘉(甥) / 前列左より横手貞嘉、貞人(兄)、治、敏子、初瀬、後列左より貞美、貞致(弟) / 横手貞美の墓(宇佐市大字末) / 横手の書簡に同封されていたもの。1928年頃。モランにて。左から佐伯祐三、荻須高德、山口長男、横手貞美。 / 横手貞美君追悼会(1931年4月11日、パリ日本人倶楽部にて) / クロッキー帳の自画像蔵)

【関係者プロフィールと参考作品(写真)】 11点

- 佐伯祐三(さえき・ゆうぞう) 1898~1928 プロフィール
- 佐伯祐三「モランの寺」(1928年 油彩・カンヴァス 60.0×73.0 東京国立近代美術館蔵)
- 佐伯祐三「ロシアの少女」(1928年 油彩・カンヴァス 65.3×53.5 大阪市蔵)
- 大橋了介(おおはし・りょうかい) 1895~1943 プロフィール
- 大橋了介「モランの教会」(1928年 油彩・カンヴァス 60.2×73.2 大阪市蔵)

郷土の天才画家 横手貞美展

~佐伯祐三と描いたパリ~

出品目録

- 大橋了介「古い家のポスター」(1930年後頃 油彩・カンヴァス 61.0×73.0 東京国立近代美術館蔵)
- 荻須高德(おぎす・たかのり) 1901~1986 プロフィール
- 荻須高德「サン・ジェルマン・シェル・モランの教会」(1928年 油彩・カンヴァス 60.0×73.0 「パリを描いた画家たち」図録より)
- 荻須高德「パリの並木道」(1930年頃 油彩・カンヴァス 73.0×60.0 小野コレクション蔵)
- 山口長男(やまぐち・たけお) 1902~1983 プロフィール
- 山口長男「顔」(1930年 油彩・カンヴァス 41.0×33.0 板橋区立美術館蔵)

【書籍・パンフレット類】 5点

- 『故横手貞美滞欧遺作集・全』(横手貞護、横手貞致・1931)
- 『大橋了介・エレナ展』(芦屋市立美術博物館・1993)
- 朝日晁・野見山暁治『佐伯祐三のパリ』(新潮社・1998)
- 『生誕100年記念 荻須高德展』(朝日新聞社・2001)
- 尼子かずみ『沈黙のしずく 画家・横手貞美の生涯』(郁朋社・2007)

【横手貞美の弟・貞致が作品を掲載した文学雑誌】 13点

※横手貞干、市林貞致ともに横手貞致のペンネーム

- 横手貞致「後二時間」『断面』(断面社・昭2.9)
- 横手貞致「薯の芽と神経」『文学祭』(文学祭社・昭3.10)
- 横手貞致「言ひ忘れた大字」『文学祭』(文学祭社・昭3.10)
- 横手貞致「井戸蓋の城壁」『文学祭』(文学祭社・昭3.12)
- 横手貞致「嘲られた支那人形」『文学祭』(文学祭社・昭4.1)
- 横手貞致「牛蝨の階級者」『社会芸術』(社会芸術社・昭5.8)
- 横手貞致「長崎港の夏」『新科学的文芸』(紀伊国屋書店・昭5.9)
- 横手貞干「長崎港の場末」『社会芸術』(社会芸術社・昭5.9)
- 市林貞致「初夏の名刺」『作家群』(作家群社・昭5.9) ※創刊号
- 横手貞干「ソヴェート船入港」『文芸科学』(交蘭社・昭5.12)
- 市林貞致「霞む窓ガラスの印象」『海豹』(図書研究社・昭8.5)
- 市林貞致「蟋蟀賦」『海豹』(図書研究社・昭8.7)
- ※同号に太宰治の「思ひ出」掲載
- 市林貞致「柿」『海豹』(図書研究社・昭8.11)

【合計51点】